トロッコが好きだった少年

馬場邦枝

未來社

トロッコが好きだった少年

馬場邦枝

未來社

トロッコが好きだった少年

一九八六年七月三一日　第一刷発行

定価　一五〇〇円

著者　馬場邦枝

発行者　西谷能雄

発行所　株式会社　未來社

東京都文京区小石川三-七-二
電話〇三-八一四-五五二一番
振替・東京　七-八七三八五番

印刷・製本＝図書印刷

トロッコが好きだった少年

目次

I
タ　カ　10
木曽路にトロッコの足跡をもとめて　14
三春の滝桜　28
二本のレール　33
おそばを食べながら　41
同じコースだね　47
大谷鉱山の白い石　52
タカ、大丈夫だ！　67
II
一年前の北海道旅行　74
最後の友達　83

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

雨の日とどいた封筒　89
水道局からの電話　97
一箱のまんじゅう　101
ふる里村タイムス　106
奥多摩の崖　109
山百合　116
三人での旅行は　121

Ⅲ

一枚の紙片　128
盆踊り　131
十一本の歯　133
二つのお弁当箱　135

ミカンが丘 138
美しい序奏 142
トロッコ 148
将来のゆめ 153
小さな木の電車 165
一冊の本との出会い 168
コロッケ 173
洗濯もの 176
夕映え菊 179
水芭蕉 183
ハーモニカ 186
文化祭 190
木の机 196

バニ 204
もう一つの舞台 208
キラキラ星と消えた星くず 219
ジロ吉 231
IV
七月二十七日 238
選ばれた場所 241
列車の中で 248
最後のほほえみ 254
あとがき 261

トロッコが好きだった少年

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

I

タ　カ

タカ、あなたは今、何処を旅しているのでしょう。本当に銀河鉄道に乗っているのかしら……。二ヶ月前の七月三十一日、東京はむし暑い日曜日の夕方でした。岩手県警からの電話の声。あの時の驚きは、どのような言葉を持っても表現出来ないでしょう。

十七歳の青春を、花巻市郊外のレールの上に、一瞬にして失ってしまうなんて……。

ボーイスカウトの隊長さんは、夜を徹して、東北自動車道を北に走り続けてくれました。みちのくの山々を染める朱鷺色の夜明け、その刻々と変化する雲の流れに、あなたが見え隠れしているようでした。

銀河と森の町、花巻に着いて、あなたが旅行中に持ち歩いていたテープを聞きました。好きだった〝銀河鉄道〟。きれいな曲でしたね。不思議なことに、現場は「銀河鉄道の

夜」の創作者、宮沢賢治の詩碑に最も近い線路でした。「きっと、お兄ちゃんは、ここから銀河鉄道に、乗り替えて行ったのね」とミーちゃんがいったのです。

銀河鉄道にのったお兄ちゃん
お兄ちゃん　いまごろ　銀河鉄道にのって
星空を旅している
かた手に　大きなゆめというキップをもって……
お兄ちゃん　いまごろ　銀河鉄道にのって
永遠の時間の中を　旅している
私達のことを心にのせて……

都

タカ、お父さんとは本当に印象的な別れでしたね。出発の朝、大好きなコロッケと唐揚のお弁当を持って、まだ夜の明けやらぬ内に、上野駅へ車で送ってもらったでしょう。そして、にっこりと嬉しそうに手を振りながら、階段を昇って行ったそうですね。

タカは、小さい時から電車が好きでしたね。あれは三歳くらいの時だったかしら、バスの待合室で、皆の前に出て、「今から電車の歌を歌います」「線路は続くよどこまでも……」と突然歌い出し苦笑させられた想い出もありますね。

小学校の六年の時、ふと本屋の片隅で見つけた『郷愁の軌跡　軽便鉄道』という一冊の本との出逢いが、古い軽便、滅び行くトロッコへの情熱を燃えたたせたのでしょう。

八月の終り、家族で花巻の現地を訪れました。事故を目撃した小学生が、通報しようと急ぎ駆け込んだ会社に行きました。するとどうでしょう。偶然にもそこには、あなたが昨年の旅行日記に書きとめ、探していた古い軽便機関車が、錆ついた姿で数台並んでいるではありませんか！　あなたはきっと、これをカメラに収めようとして列車から転落したのでしょう。〝知られざるトロッコの実態を探る〟という目的で旅し、これまでも、全国をコツコツと三十数ヶ所も調べ歩いていましたね。

書きかけの紀行文を見つけて、私は、この記録はタカだけにしか書けないもの、もう少し書き置いて欲しかったと残念に思います。

タカ、最近あなたの声を聞きました。六月のある日、一家団らんの夕食時、テープに収めたものが見つかりました。カウンセリングの資料にと思って収録したものです。これが

残されたあなたの唯一の声です。

遺品の中に、バンドの切れた時計を見た時、私は「動いている」と思わず声を出してしまいました。あの時の衝撃に良く耐えて、今は私の左手で毎日生活をともにしています。

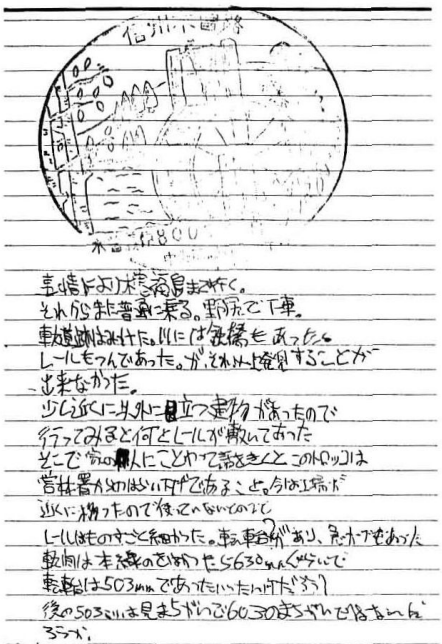
人生の中で、その人の最も充実した姿が見える時、神はその人に死を賜わり、いつもその人に適した死に場所を考えて下さると聞きました。あなたとの終りが、実は、新しい始まりになったのかも知れません。野越え、山越え未踏に終ったタカのトロッコへの思慕をかみしめ、お父さんとお母さんは、コツコツと線路の軌道を辿って行くことでしょう。

銀河鉄道に乗り替えて行ったタカ。

十七年間、本当に有難う。

（昭和五十八年九月）

木曽路にトロッコの足跡をもとめて



上松で下車。貯木場でDLをさがすがなし。駅前のDLも消えていた。町中さがしたが結局みつけられなかった。

事情により木曽福島まで行く。それからまた普通に乗る。野尻で下車。軌道跡はみつけた。川には鉄橋もあった。レールもつんであった。が、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com